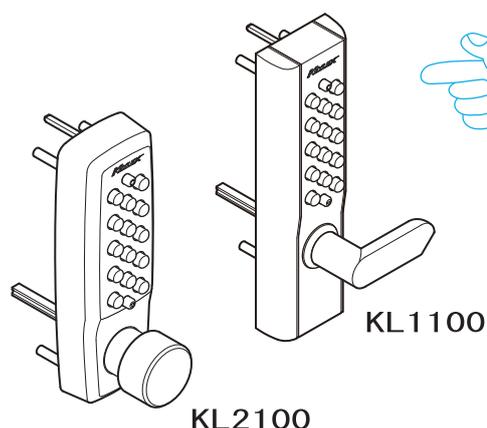


# KEYLEX<sup>®</sup> 2100 1100

KL2100 KL1100  
自動施錠

## 取扱説明書（施主様向）

このたびは、当社製品のお買い上げ、ありがとうございます。本取扱説明書は、施主様、又はご入居者にお渡しください。  
この説明書は必ずお読みの上、保管してください。



防犯上、定期的に記憶番号の変更をされますようおすすめ致します。

### 〈記憶番号の記録〉

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

ただ今の記憶番号

※ 各機種ともノブタイプ、レバーハンドルタイプがあります

## キーレックス 2100 1100 シリーズ 保証書

お買い上げ日から1年間は、無料で修理を行なうことをお約束致します。  
但し、誤用、取り扱いの不注意、災害、不当な修理や改造等に起因する  
故障、又は本証のお買い上げ日及び販売店名の欄に記入がない場合は、  
保証期間内でも有料修理になります。

機種名： **キーレックス 2100 1100**

22403, 22403M, 22403D, 22423, 22423M, 22423D, 22603, 22603M, 22603D, 22623, 22623M, 22623D

お買い上げ日： 年 月 日 保証期間：お買い上げ日より1年間

販売店  
住所・店名

品質ロット No.

検印



www.nagasawa-mfg.co.jp

株式会社 長沢製作所

東京支店 TEL. 03-5383-1811 (代) 福岡出張所 TEL. 092-524-7031 (代)  
FAX. 03-5967-3103 FAX. 092-524-7032

大阪支店 TEL. 06-6783-5091 (代)  
FAX. 06-6783-5092

# 基本操作

ご使用前に確認してください。

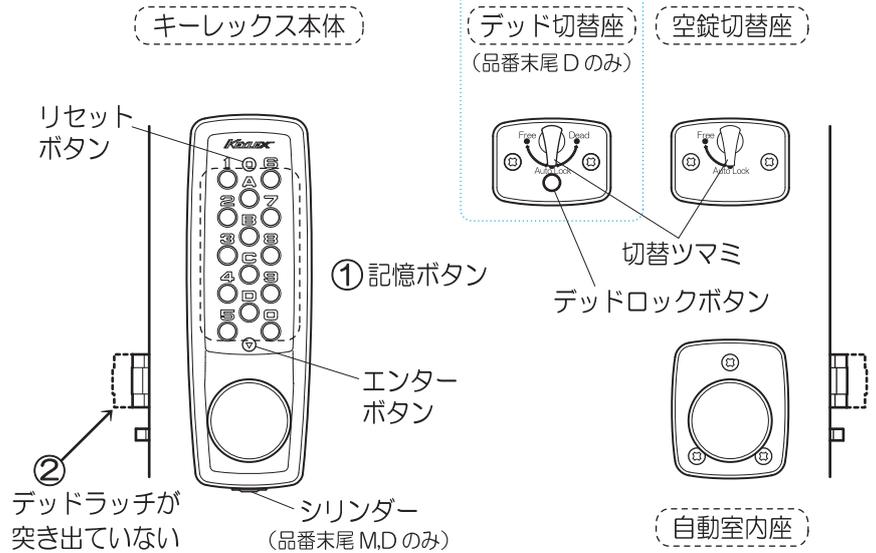
- ① 登録している記憶番号
- ② 錠のデッドラッチが突き出ていない  
(突き出ている場合は、ノブ(レバー)を操作して、デッドラッチを正常位置に戻す)

※ レバー仕様の場合はレバーが真横にある  
(真横にない場合は、4ページの  
レバーハンドル位置が正常でない時を参照)

※ 鍵付タイプ(品番末尾 M,D)の場合は  
記憶ボタン操作の代わりにキー操作でも  
開扉できます。

I: キーをシリンダーに入れ回す  
(デッドラッチのみが引き込まれる)

II: キーを回したまま(戻さずに)、  
ノブ(レバー)を引いて(外開き時)開扉する



## 室内側

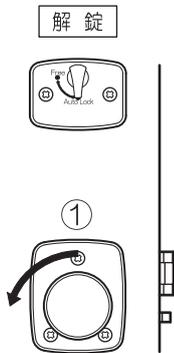
## 室外側

### 施錠

- ① 扉を閉めると、自動で施錠されます(Auto Lock 時)

### 解錠

- ① ノブ(レバー)操作で、解錠できます

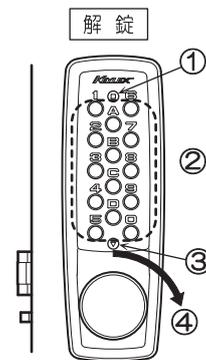


### 施錠

- ① 扉を閉めると、自動で施錠されます(Auto Lock 時)

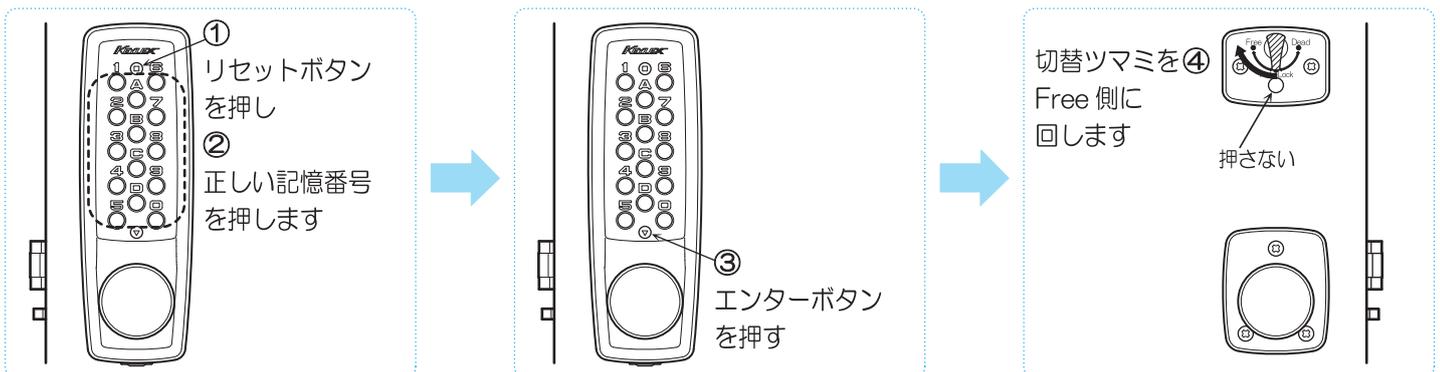
### 解錠

- ① リセットボタンを押します: 誤操作の記憶番号が解除されます
- ② 正しい記憶番号を押し、③ エンターボタンを押します
- ④ ノブ(レバー)操作で、解錠できます



※ 本図は右吊元仕様(左吊元時は対称)

切替ツマミで、自動施錠から、扉を閉めても鍵がかからない状態(空錠)にすることができます(Auto Lock から Free)  
扉を開けた状態で操作します

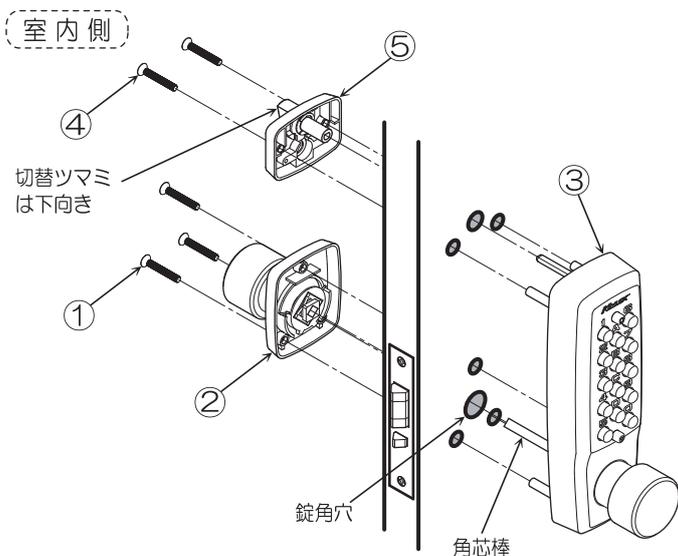


空錠から自動施錠へは、切替ツマミを Free → Auto Lock へ回します(デッドロックボタンは押さない)

## 記憶番号の変更手順 扉は開けたままの状態でおこないます

### 【1】キーレックス本体を取り外します

取り外した部材は全て使います。紛失しないようご注意ください



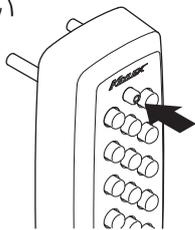
- I : ①本体固定ねじ3本をはずし、②自動室内座を取りはずします  
 II : ③キーレックス本体の落下に注意しながら  
 ④本体固定ねじ2本をはずします  
 III : ③キーレックス本体と⑤切替座を取りはずします

室外側

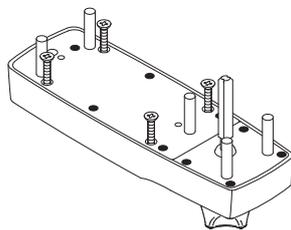
本図は右吊元仕様（左吊元は対称）

### 【2】記憶番号の設定変更をします

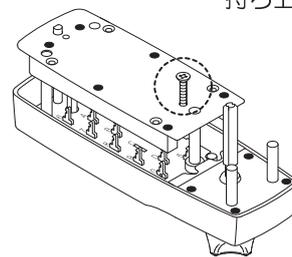
- I 本体表側のリセットボタンを押す  
 ⑧まで記憶ボタンは押さないでください



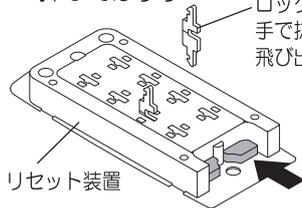
- II 本体裏のねじ4本をはずす  
 (赤色ねじははずさない)



- III ねじを下図の位置に入れ  
 持ち上げる



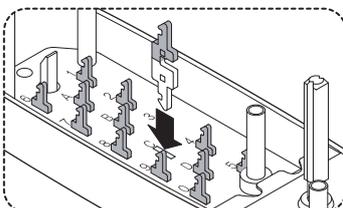
- IV リセット装置にロック板が残った場合 灰色部を矢印方向に押しははずす



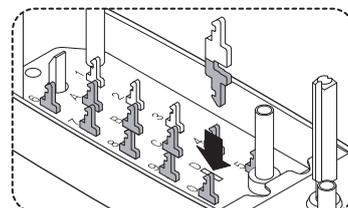
ロック板は  
 手で抜かない  
 飛び出しに注意

リセット装置

- V 今までの記憶番号を消す：白色のロック板を赤色に差し替える



- VI 新規記憶番号をセット：新しく記憶させる番号のロック板を白色に差し替える【下図 123D】



⑦ 新規記憶番号を必ず記録します。本紙 1 ページに記入欄があります

⑧ リセットボタン + 新規記憶ボタン + エンターボタンを押し、ノブ（レバー）が解錠方向に回ることを確認します。

**基本操作** 室外側欄を参照します

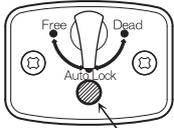
### 【3】本体を取り付けます

【1】と逆の順番で取り付けます  
 角芯棒、切替ツマミの向きに注意して取り付けます（上図参照）

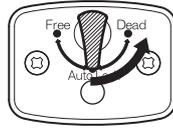
取り付けたら、扉を閉めずに 2 ページの **基本操作** で作動確認をします

## デッドロック機能

デッドロックボタンが付いているキーレックスの機能です。解錠をキー操作だけに切り替えられます。記憶ボタンによる解錠機能をロック【使用不可能】にすることで、解錠できる人員を限定でき、出入りを制限したい場所などに有効です。



① デッドロックボタンを押しながら



② 切替ツマミを Dead 側に回します

デッドロックから自動施錠へは  
切替ツマミを  
Dead → Auto Lock へ回します  
(デッドロックボタンは押さない)

## レバーハンドルの位置が正常でない時

レバーハンドルに『こじ開け防止・安全装置機能』がついています。記憶ボタン操作をせず強引にレバーハンドル操作をすると内部機構保護のため安全装置が作動し、レバーハンドルが空転して、上(下)位置でとまります。故障ではありません。

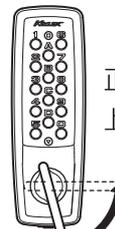


レバーハンドルの  
正常な位置

レバーハンドルの位置が  
右図になった時は  
正常な位置に戻します



正常な位置まで  
下げ戻す



正常な位置まで  
上げ戻す

本図は KL2100 右吊元仕様 (左吊元は対称)

## 記憶番号設定に関するご注意

- KL2100, 1100 は 1 ~ 14 桁まで任意の記憶番号を設定できます。
- ボタンを押す順番は自由です。順番は指定できません。  
例) 記憶番号 1・2・3 の場合  
1・2・3 と押しても 2・3・1 3・1・2 1・3・2 と押しても解錠できます。
- 1つのボタンにつき設定は1回だけです。(同じボタンを2度押しする設定はできません)  
例) 1・1・2・3 や 1・2・2・3 の設定はできません。



**注意 危険防止の為に以下をお読みください**

- 取付ねじのゆるみ
  - 各部取付ねじのゆるみは、防犯及び落下防止の為に定期的に増し締めしてください。
- 受座の飛び出し
  - 受座の飛び出しが大きい場合、体を傷つけたり、衣服を引っ掛けるおそれがありますので、取付業者に依頼して適正な受座に取り替えてください。
- 他の用途への使用
  - レバーハンドルにぶらさがったり、足場にしたり、物を掛けたりしないでください。危険です。
- ◆ 操作上の注意 (故障の原因となります)
  - 製品の分解、改造はしないでください。
  - デッドラッチを突出させた状態で扉を閉めないでください。
  - ボタンを押しながら、ノブ(レバーハンドル)の操作をしないでください。
- ◆ 永くご使用頂くために
  - 錠ケースへの潤滑材使用はさけてください。
  - 表面の手入れは柔らかな布で拭きしてください。汚れのひどい場合は、中性洗剤を使用してください。

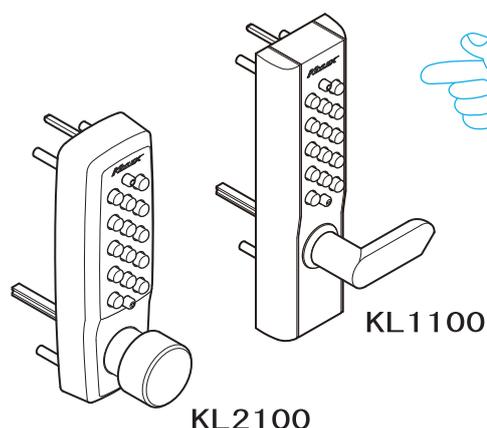
ドアの吊り下がり、扉の開閉速度、丁番の具合など異常がありましたら専門の業者にご相談ください。

# KEYLEX<sup>®</sup> 2100 1100

KL2100 KL1100  
自動施錠

## 取扱説明書（施主様向）

このたびは、当社製品のお買い上げ、ありがとうございます。本取扱説明書は、施主様、又はご入居者にお渡しください。  
この説明書は必ずお読みの上、保管してください。



防犯上、定期的に記憶番号の変更をされますようおすすめ致します。

〈記憶番号の記録〉

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

ただ今の記憶番号

※ 各機種ともノブタイプ、レバーハンドルタイプがあります

### キーレックス 2100 1100 シリーズ 保証書

お買い上げ日から1年間は、無料で修理を行なうことをお約束致します。  
但し、誤用、取り扱いの不注意、災害、不当な修理や改造等に起因する  
故障、又は本証のお買い上げ日及び販売店名の欄に記入がない場合は、  
保証期間内でも有料修理になります。

機種名： **キーレックス 2100 1100**

22403, 22403M, 22403D, 22423, 22423M, 22423D, 22603, 22603M, 22603D, 22623, 22623M, 22623D

お買い上げ日： 年 月 日 保証期間：お買い上げ日より1年間

販売店  
住所・店名

品質ロット No.

検印



www.nagasawa-mfg.co.jp

株式会社 長沢製作所

東京支店 TEL. 03-5383-1811 (代) 福岡出張所 TEL. 092-524-7031 (代)  
FAX. 03-5967-3103 FAX. 092-524-7032

大阪支店 TEL. 06-6783-5091 (代)  
FAX. 06-6783-5092

# 基本操作

ご使用前に確認してください。

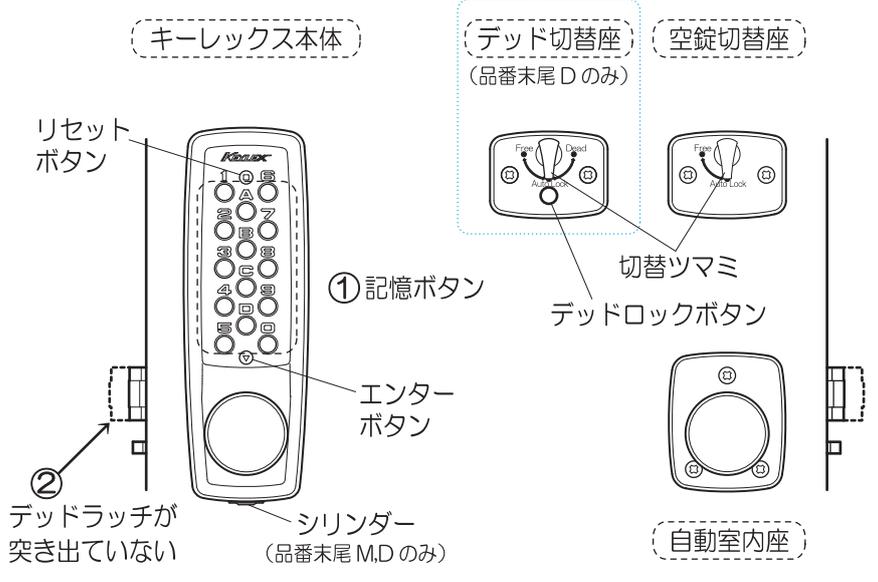
- ① 登録している記憶番号
- ② 錠のデッドラッチが突き出ていない  
(突き出ている場合は、ノブ(レバー)を操作して、デッドラッチを正常位置に戻す)

※ レバー仕様の場合はレバーが真横にある  
(真横にない場合は、4ページの  
レバーハンドル位置が正常でない時を参照)

※ 鍵付タイプ(品番末尾 M,D)の場合は  
記憶ボタン操作の代わりにキー操作でも  
開扉できます。

I: キーをシリンダーに入れ回す  
(デッドラッチのみが引き込まれる)

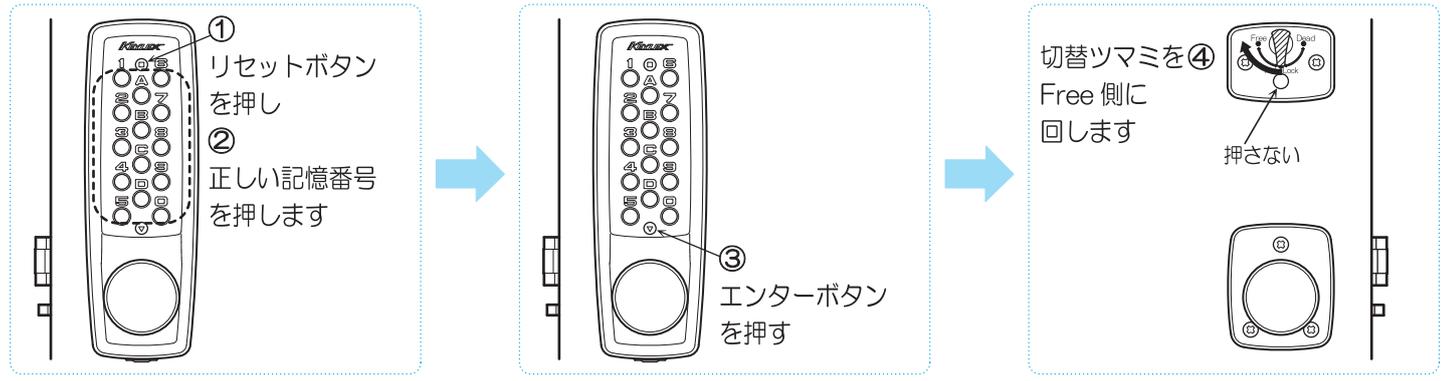
II: キーを回したまま(戻さずに)、  
ノブ(レバー)を引いて(外開き時)開扉する



室内側	室外側
<p><b>施錠</b></p> <p>① 扉を閉めると、自動で施錠されます (Auto Lock 時)</p> <p><b>解錠</b></p> <p>① ノブ(レバー)操作で、解錠できます</p>	<p><b>施錠</b></p> <p>① 扉を閉めると、自動で施錠されます (Auto Lock 時)</p> <p><b>解錠</b></p> <p>① リセットボタンを押します: 誤操作の記憶番号が解除されます ② 正しい記憶番号を押し、③ エンターボタンを押します ④ ノブ(レバー)操作で、解錠できます</p>

※ 本図は右吊元仕様(左吊元時は対称)

切替ツマミで、自動施錠から、扉を閉めても鍵がかからない状態(空錠)にすることができます (Auto Lock から Free) 扉を開けた状態で操作します

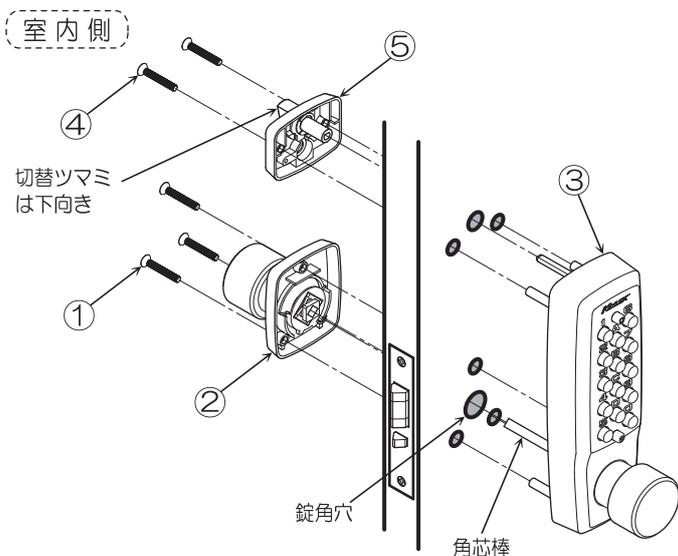


空錠から自動施錠へは、切替ツマミを Free → Auto Lock へ回します (デッドロックボタンは押さない)

## 記憶番号の変更手順 扉は開けたままの状態でおこないます

### 【1】キーレックス本体を取り外します

取り外した部材は全て使います。紛失しないようご注意ください



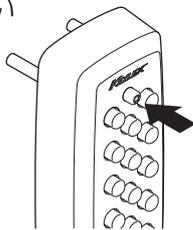
- I : ①本体固定ねじ3本をはずし、②自動室内座を取りはずします  
 II : ③キーレックス本体の落下に注意しながら  
 ④本体固定ねじ2本をはずします  
 III : ③キーレックス本体と⑤切替座を取りはずします

室外側

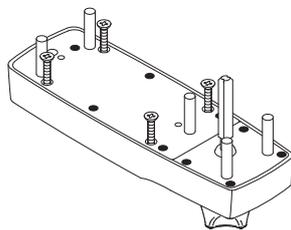
本図は右吊元仕様（左吊元は対称）

### 【2】記憶番号の設定変更をします

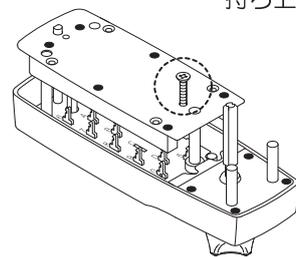
- I 本体表側のリセットボタンを押す  
 ⑧まで記憶ボタンは押さないでください



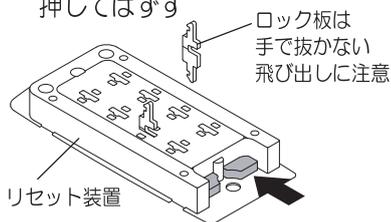
- II 本体裏のねじ4本をはずす  
 (赤色ねじははずさない)



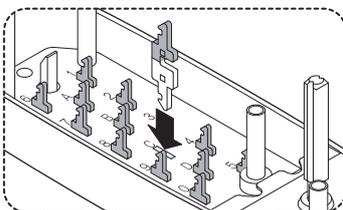
- III ねじを下図の位置に入れ  
 持ち上げる



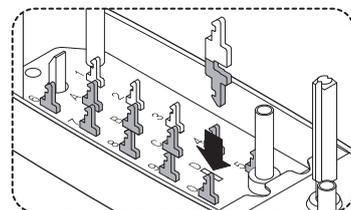
- IV リセット装置にロック板が残った場合 灰色部を矢印方向に押しははずす



- V 今までの記憶番号を消す：白色のロック板を赤色に差し替える



- VI 新規記憶番号をセット：新しく記憶させる番号のロック板を白色に差し替える【下図 123D】



⑦ 新規記憶番号を必ず記録します。本紙 1 ページに記入欄があります

⑧ リセットボタン + 新規記憶ボタン + エンターボタンを押し、ノブ（レバー）が解錠方向に回ることを確認します。

**基本操作** 室外側欄を参照します

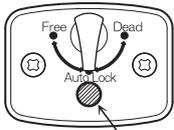
### 【3】本体を取り付けます

【1】と逆の順番で取り付けます  
 角芯棒、切替ツマミの向きに注意して取り付けます（上図参照）

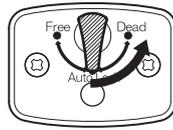
取り付けたら、扉を閉めずに 2 ページの **基本操作** で作動確認をします

## デッドロック機能

デッドロックボタンが付いているキーレックスの機能です。解錠をキー操作だけに切り替えられます。記憶ボタンによる解錠機能をロック【使用不可能】にすることで、解錠できる人員を限定でき、出入りを制限したい場所などに有効です。



① デッドロックボタンを押しながら



② 切替ツマミを Dead 側に回します

デッドロックから自動施錠へは  
切替ツマミを  
Dead → Auto Lock へ回します  
(デッドロックボタンは押さない)

## レバーハンドルの位置が正常でない時

レバーハンドルに『こじ開け防止・安全装置機能』がついています。記憶ボタン操作をせず強引にレバーハンドル操作をすると内部機構保護のため安全装置が作動し、レバーハンドルが空転して、上(下)位置でとまります。故障ではありません。

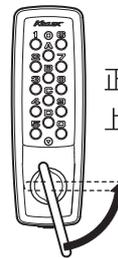


レバーハンドルの  
正常な位置

レバーハンドルの位置が  
右図になった時は  
正常な位置に戻します



正常な位置まで  
下げ戻す



正常な位置まで  
上げ戻す

本図は KL2100 右吊元仕様 (左吊元は対称)

## 記憶番号設定に関するご注意

- KL2100, 1100 は 1 ~ 14 桁まで任意の記憶番号を設定できます。
- ボタンを押す順番は自由です。順番は指定できません。  
例) 記憶番号 1・2・3 の場合  
1・2・3 と押しても 2・3・1 3・1・2 1・3・2 と押しても解錠できます。
- 1つのボタンにつき設定は1回だけです。(同じボタンを2度押しする設定はできません)  
例) 1・1・2・3 や 1・2・2・3 の設定はできません。



**注意 危険防止の為に以下をお読みください**

- 取付ねじのゆるみ ● 各部取付ねじのゆるみは、防犯及び落下防止の為に定期的に増し締めしてください。
- 受座の飛び出し ● 受座の飛び出しが大きい場合、体を傷つけたり、衣服を引っ掛けるおそれがありますので、取付業者に依頼して適正な受座に取り替えてください。
- 他の用途への使用 ● レバーハンドルにぶらさがったり、足場にしたり、物を掛けたりしないでください。危険です。
- ◆ 操作上の注意 (故障の原因となります) ● 製品の分解、改造はしないでください。  
● デッドラッチを突出させた状態で扉を閉めないでください。  
● ボタンを押しながら、ノブ(レバーハンドル)の操作をしないでください。
- ◆ 永くご使用頂くために ● 錠ケースへの潤滑材使用はさけてください。  
● 表面の手入れは柔らかな布で拭きしてください。  
汚れのひどい場合は、中性洗剤を使用してください。

ドアの吊り下がり、扉の開閉速度、丁番の具合など異常がありましたら専門の業者にご相談ください。